

本年度学校教育の努力点とその推進計画

1 本校のテーマ

昨年度はテーマを「互いに認め合い 学びを深めよう ～ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの実現～」と設定し、教育活動に取り組んだ。生徒や保護者に行った学校教育に関するアンケートの結果、「自分は、友達と支え合いながら、知識や技能を身に付ける活動を重視して学習活動を行っている」の項目で、半数の生徒が「よく当てはまる」と答えたが、保護者は2割にとどまった。さらに、「自分は(子どもは)各教科・領域の各単元の授業の目標を理解している」の項目では、生徒・保護者共に、低い評価となった。また、生徒・保護者共に、「授業で、自分の(子どもの)基礎的な学力は身に付いてきている」の項目では、昨年度に引き続き、やや低い評価であった。

新しい学習指導要領の実施により、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行い、学びの動機付けや幅広い資質・能力の育成に向けた効果的な取組を展開することが示されている。各教科・領域の学習において、「何を学ぶべきか」「どのような力を身に付けなければならないのか」を生徒に意識させ、仲間との対話を通して、主体的な学びを目指していきたい。またICTの効果的な活用も望まれている。

これらのことから、今年度は、何を学ぶのか「学習内容」を明確にした上で、自分の考えをもったり、仲間と対話をして考えを深めたりできる取組にしていきたい。そして、今年度のテーマを、昨年度に引き続き、次のように設定して、授業実践に取り組む。

互いに認め合い 学びを深めよう
～ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの実現～

2 努力点推進の具体化

- 各教科・領域の各単元(題材)で、導入(めあてをつかむ)→展開(自分の考えをもつ、仲間と対話する)→まとめ(まとめる、振り返る)の学習過程を明確にする。
- 生徒が相互に支え合いながら、共に関わりをもち、知識やスキルを身に付ける活動(ピアラーニング)を重視する。
- 探究学習・協働学習支援ツール(ロイロノート、スカイメニュークラウド)、デジタルドリル(Qubena)などを利用した、タブレットPCの活用を行う。

授業づくりのポイントと手だての例

- ① 学習内容を明確にし、適切なめあてを設定する。
- ② その学習内容を学ぶことができるように、自分の考えをもつ手だてを考える。
- ③ 仲間と対話をして考えを深める手だてを考える。

※ 「①②③」で必ず実践するとは限らず、「①②」に焦点を当てた実践、「①③」に焦点を当てた実践もある。**②や③において、タブレットの活用を考える。**

例) 本時の課題に関わる既習事項をデジタルドリルで復習をして、本時の課題に取り組む。(②の手だて)

例) ロイロノート、コラボノート、スカイメニュークラウドで、各自の意見を集約して、観点に基づいて分類する。(③の手だて)

※ アクセスポイントが整備されていない教室での実践の場合は、タブレットの活用なしでの実践となる。

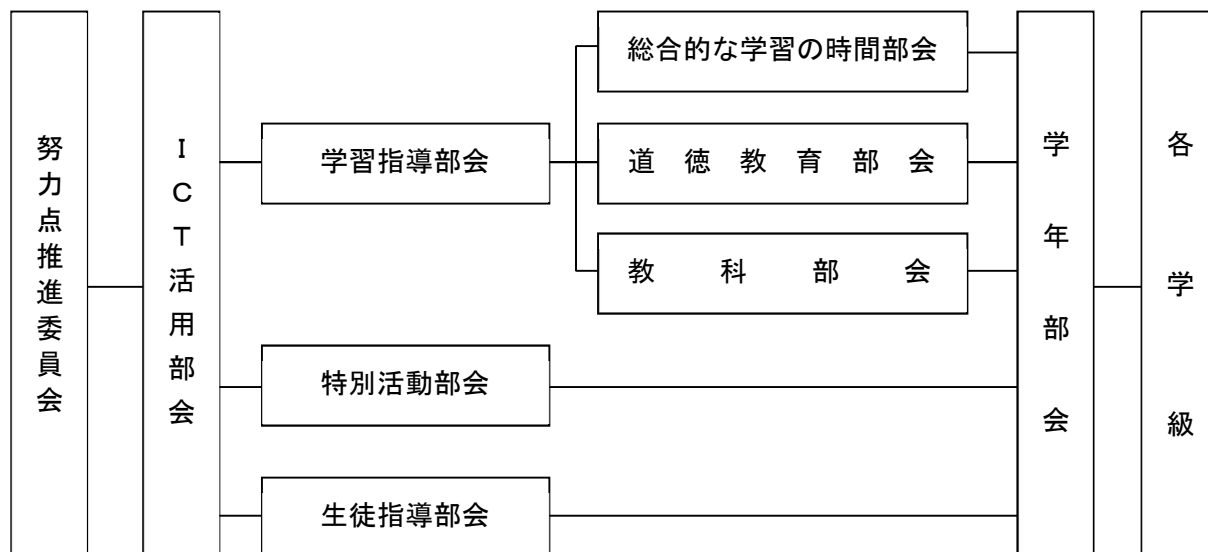
例) 本時の課題に関わる既習事項を確認し、本時の課題に取り組む。(②の手だて)

例) グループの意見を小型ホワイトボードに示し、意見を分類する。(③の手だて)

例) 対話の後、自分の考えを見直すための学習プリントを工夫する。(③の手だて)

※ **アクセスポイントの未設置教室の整備を進める。(学習環境の整備)**

3 努力点推進組織



4 努力点推進の方法

(1) 主題への取組の手順

- ア 「努力点推進の具体化」に基づいて、学級や学年などの活動や取組、授業などを通して、目標・計画を策定し、「努力点推進計画書」を作成する。（一人一実践）
- イ 「努力点推進計画書」に基づいて取組を行う。
- ウ 取組を振り返り、達成状況を明らかにし、「努力点推進報告書」を作成する。
- エ 各自が取り組んだ主題の取組について、共有を図る。

(2) 努力点推進の発表

- 生徒に対しては、集会や学校通信を始めとする各種印刷物などを活用して、主題への取組を知らせる。
- 保護者に対しては、学校通信を始めとする各種印刷物や保護者会・家庭訪問・学校開放、ホームページなどを通じて、学校への理解と協力を促す。

(3) 年間計画

学期	月	内 容
1	4	努力点推進計画書（学年部会・教科部会） 実践授業（単元）決定
	5	授業実践計画書の作成、1学期の実践
	6	ICTソフトの研修
2	9	授業実践計画書の作成、2学期の実践
	11	2学期の実践の共有
3	2	研究のまとめ
	3	努力点推進委員会 （本年度の取組の反省と次年度の実践に向けて）